



TITLE:

# 加速可能集合と加速法(数値解析と科学計算)

AUTHOR(S):

長田, 直樹

---

CITATION:

長田, 直樹. 加速可能集合と加速法(数値解析と科学計算). 数理解析研究所講究録 1990, 717: 90-103

ISSUE DATE:

1990-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/101771>

RIGHT:

## 加速可能集合と加速法

長崎総合科学大 長田直樹 (Naoki Osada)

### 1. はじめに

収束の遅い数列や級数の極限值を求めるには、加速法が必要になる。数列変換  $T$  が、数列の集合  $\mathcal{S}$  のすべての数列を加速するとき、 $\mathcal{S}$  は加速可能集合と呼ばれる。数列  $(S_n)$  が  $\mathcal{S}$  に属することが事前に分かれば、 $T$  を用いて加速できる。

自然数全体の集合を  $\mathbb{N}$  とする。収束する実数列全体の集合を  $\mathcal{C}$  とし、 $\mathcal{C}$  の部分集合  $\mathcal{C}^*$  を

$$\mathcal{C}^* = \{ (S_n) \in \mathcal{C} \mid \exists N \in \mathbb{N} \text{ s.t. } \lim_{n \rightarrow \infty} S_n \neq S_m \text{ for } \forall m > N \}$$

により定義する。 $S$  に収束する数列  $(S_n) \in \mathcal{C}^*$  が極限值

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_{n+1} - S}{S_n - S} = \lambda$$

を持つとき、 $|\lambda| \leq 1$  である。 $\mathcal{C}^*$  の2つの部分集合  $LIN$ ,  $LOG$  は

$$LIN = \{ (S_n) \in \mathcal{C}^* \mid -1 \leq \lambda < 1, \lambda \neq 0 \}$$

$$LOG = \{ (S_n) \in \mathcal{C}^* \mid \lambda = 1 \}$$

により定義される。それぞれの元を線型収束列、対数収束列という。また、 $LOG$  の部分集合  $LOGSF$  は

$$LOGSF = \{ (S_n) \in LOG \mid \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\Delta S_{n+1}}{\Delta S_n} = 1 \}$$

により定義される。よく知られているように、 $LIN$  は Aitken  $\delta^2$  法により加速可能となる (Henrici [4])。また、 $LOG$  および  $LOGSF$  は、Delahaye と Germain-Bonne [3] が示したように、加速可能ではない。そこで、 $LOGSF$  の加速可能な部分集合を求めることが問題となる。この問題に対して Kowalewski [5] は詳細な研究を行った。その中で彼女は、与えられた数列の集合から数列変換を得る方法として、 $TSE$  (technique du sous-ensemble) と呼ばれる手法を用い

ている。TSEは、加速可能集合や数列変換の核を調べる上で、有益な道具であるにもかかわらず、これまでほとんど注目されなかった。

本報告では、TSEを定式化し、TSEから得られる数列変換の核について述べる。つづいて、LOGSFのある部分集合にTSEを適用し、得られる数列変換 $T^{[m]}$ の核や $T^{[m]}$ による加速可能集合について調べる。さらに、 $T^{[m]}$ を典型的な数列に適用した場合の誤差の漸近評価も述べ、数値例を与える。

## 2. 基本的定義

$\mathcal{S}$ ,  $\mathcal{T}$ を数列の集合とする。数列変換 $T: \mathcal{S} \rightarrow \mathcal{T}$ と $(S_n) \in \mathcal{S}$ に対し  $(T_n) = T(S_n)$  とおく。

$T$ が $(S_n) \in \mathcal{S}$ に対し完全であるとは、 $T_m$ が存在するような任意の自然数 $m$ に対し

$$T_m = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$$

が成り立つときいう。Tによって完全となる最大の集合をTの核という。

$T$ が $(S_n) \in \mathcal{S}$ を加速するとは、 $S = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  とおいたとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{T_n - S}{S_n - S} = 0$$

となるときいう。数列の集合 $\mathcal{S}$ が加速可能であるとは、 $\mathcal{S}$ 上定義された数列変換 $T$ が存在して、 $\mathcal{S}$ の全ての数列がTにより加速されるときいう。

## 3. TSE

実数全体の集合を $\mathbb{R}$ とする。自然数 $k$ ,  $\mathbb{R}^{k+2}$ の開集合 $U_n$  ( $n > k$ ),  $U_n$ で連続な実数値関数 $f_n(x_1, \dots, x_{k+2})$ , および、 $\mathcal{S}$ の部分集合 $\mathcal{I}$ が存在し、任意の $(S_m) \in \mathcal{S}$ と、 $n > k$  に対し

$$(S_{n-k}, \dots, S_n, S) \in U_n$$

が成立するものと仮定する。ここで $S$ は $(S_m)$ の極限值である。さらに、 $\mathcal{I}$ の部分集合 $\mathcal{J}$ が、 $\mathbb{R}$ の空でない部分集合 $I$ により

$$\mathcal{J} = \{ (S_n) \in \mathcal{S} \mid \exists \alpha \in I \text{ s.t. } \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(S_{n-k}, \dots, S_n, S) = \alpha \}$$

と表されているものとする。

$\mathcal{J}$ に対するTSEとは、 $\mathcal{J}$ を定義する関数 $f_n$ から以下のように数列変換を導く手法である。

## 3.1. 第1種のTSE

各  $n > k+1$  に対し,  $k+3$ 変数関数  $F_n$  を

$$F_n(x_1, \dots, x_{k+3}) = f_n(x_2, \dots, x_{k+2}, x_{k+3}) - f_{n-1}(x_1, \dots, x_{k+1}, x_{k+3})$$

により定義する.  $\mathbb{R}^{k+2}$ の開集合  $V_n$  と  $V_n$  で連続な関数  $g_n$  が存在して, 任意の  $(x_1, \dots, x_{k+2}) \in V_n$  に対し

$$(x_2, \dots, x_{k+2}, g_n(x_1, \dots, x_{k+2})) \in U_n,$$

$$(x_1, \dots, x_{k+1}, g_n(x_1, \dots, x_{k+2})) \in U_{n-1},$$

$$F_n(x_1, \dots, x_{k+2}, g_n(x_1, \dots, x_{k+2})) = 0$$

が成立すると仮定する. このとき,  $\mathcal{S}$  の部分集合

$$\mathcal{D} = \{ (S_n) \in \mathcal{S} \mid (S_{n-k-1}, \dots, S_n) \in V_n \text{ for } \forall n > k+1 \}$$

を定義域とする数列変換  $T: (S_n) \rightarrow (T_n)$

$$T_n = g_n(S_{n-k-1}, \dots, S_n) \quad n > k+1$$

が得られる.  $T$  の核は

$$\mathcal{N} = \{ (S_n) \in \mathcal{D} \mid \exists \alpha \in \mathbb{R} \text{ s.t. } f_n(S_{n-k}, \dots, S_n, S) = \alpha \text{ for } \forall n > k \}$$

に含まれる. とくに,  $\mathbb{R}^{k+3}$  の開集合  $W_n$  ( $n > k+1$ ) が存在して,

$$F_n(x_1, \dots, x_{k+3}) = 0, \quad (x_1, \dots, x_{k+3}) \in W_n$$

と

$$x_{k+3} = g_n(x_1, \dots, x_{k+2}), \quad (x_1, \dots, x_{k+2}) \in V_n$$

が同値なとき,  $T$  の核は  $\mathcal{N}$  に一致する.

$U_n$  と  $f_n$  が  $n$  に無関係なときは,  $F_n, V_n, g_n$  も  $n$  に無関係である. それぞれ,  $U, f, F, V, g$  と表すと, 数列変換  $T$  は

$$T_n = g(S_{n-k-1}, \dots, S_n) \quad n > k+1$$

となる.

## 3.2. 第2種のTSE

数列  $(S_n) \in \mathcal{S}$  に対し極限值

$$\alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(S_{n-k}, \dots, S_n, S)$$

が既知の場合を考える. 各  $n > k$  に対し,  $k+2$ 変数関数  $F_n^\alpha$  を

$$F_n^\alpha(x_1, \dots, x_{k+2}) = f_n(x_1, \dots, x_{k+2}) - \alpha$$

により定義する. さらに,  $\mathbb{R}^{k+1}$  の開集合  $V_n^\alpha$  と  $V_n^\alpha$  で連続な関数  $g_n^\alpha$  が存在して

$$F^{\alpha_n}(x_1, \dots, x_{k+1}, g^{\alpha_n}(x_1, \dots, x_{k+1})) = 0, \quad (x_1, \dots, x_{k+1}) \in V^{\alpha_n}$$

が成立すると仮定する。このとき、 $\mathcal{S}$ の部分集合

$$\mathcal{D}^{\alpha} = \{ (S_n) \in \mathcal{S} \mid (S_{n-k}, \dots, S_n) \in V^{\alpha_n} \text{ for } \forall n > k \}$$

を定義域とする数列変換  $T^{\alpha}: (S_n) \rightarrow (T^{\alpha}_n)$

$$T^{\alpha}_n = g^{\alpha_n}(S_{n-k}, \dots, S_n) \quad n > k$$

が得られる。数列変換  $T^{\alpha}$  の核は、

$$\mathcal{N}^{\alpha} = \{ (S_n) \in \mathcal{D}^{\alpha} \mid f_n(S_{n-k}, \dots, S_n, S) = \alpha \text{ for } \forall n > k \}$$

に含まれる。とくに、 $R^{k+2}$ の開集合  $W^{\alpha_n}$  ( $n > k$ ) が存在して、

$$F^{\alpha_n}(x_1, \dots, x_{k+2}) = 0, \quad (x_1, \dots, x_{k+2}) \in W^{\alpha_n}$$

と

$$x_{k+2} = g^{\alpha_n}(x_1, \dots, x_{k+1}), \quad (x_1, \dots, x_{k+1}) \in V^{\alpha_n}$$

が同値なとき、 $T^{\alpha}$ の核は  $\mathcal{N}^{\alpha}$  に一致する。

#### 4. 基本的例

前節において  $U_n, V_n, W_n, f_n, F_n, g_n$  が  $n$  に無関係の場合を考える。

$$U = \{ (x, y, z) \in R^3 \mid x \neq z \},$$

$$f(x, y, z) = \frac{y-z}{x-z},$$

$$\mathcal{S} = \mathcal{C}^*$$

とする。このとき、

$$I = [-1, 0) \cup (0, 1)$$

とすると  $\mathcal{S} = L \mid N$  であり、

$$I = \{1\}$$

とすると  $\mathcal{S} = L \mid O \mid G$  となる。

$L \mid N$  あるいは  $L \mid O \mid G$  に、第1種のTSEを適用する。

$$F(x, y, z, w) = \frac{z-w}{y-w} - \frac{y-w}{x-w}$$

とおき、 $F(x, y, z, w) = 0$  を  $w$  について解くと

$$w = x - \frac{(y-x)^2}{z-2y+x} = y - \frac{(y-x)(z-y)}{z-2y+x} = z - \frac{(z-y)^2}{z-2y+x}$$

となるので、得られる数列変換はAitken  $\delta^2$ -process

$$T_n = S_{n-2} - \frac{(\Delta S_{n-2})^2}{\Delta^2 S_{n-2}}$$

である。ここで、 $\Delta$ は

$$\Delta S_n = S_{n+1} - S_n, \quad \Delta^2 S_n = \Delta S_{n+1} - \Delta S_n$$

を表す。そこで

$$g(x, y, z) = x - \frac{(y-x)^2}{z-2y+x}$$

$$V = \{ (x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid z-2y+x \neq 0, x \neq y, y \neq z \}$$

$$W = \{ (x, y, z, w) \in \mathbb{R}^4 \mid (x, y, z) \in V, x \neq w, y \neq w \}$$

とおくと

$$F(x, y, z, w) = 0, \quad (x, y, z, w) \in W$$

と

$$w = g(x, y, z), \quad (x, y, z) \in V$$

は同値である。したがって、 $T$ の定義域は

$$\mathcal{D} = \{ (S_n) \in \mathcal{C} \mid \Delta^2 S_n \neq 0 \text{ and } \Delta S_n \neq 0 \text{ for } \forall n \in \mathbb{N} \}$$

であり、 $T$ は $L \cap \mathbb{N} \cap \mathcal{D}$ を加速する。また、 $T$ の核は

$$\mathcal{N} = \{ (S_n) \in \mathcal{D} \mid \exists \lambda (0 < |\lambda| < 1)$$

$$\text{s.t. } S_n = S + (S_1 - S)\lambda^{n-1} \text{ for } \forall n \in \mathbb{N} \}$$

である。(Brezinski[1, p.40]).

なお、 $(S_n) \in L \cap \mathbb{N}$ のとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \Delta S_{n+1} / \Delta S_n < 1$  (Wimp[7, p.6])だから、 $n$ が

十分大きいときには、 $\Delta^2 S_{n-2} \neq 0$ である。(Henrici[4, p.73]). よって、

$$\hat{T}_n = \begin{cases} T_n & \text{if } \Delta^2 S_{n-2} \neq 0 \\ S_n & \text{if } \Delta^2 S_{n-2} = 0 \end{cases}$$

は $L \cap \mathbb{N}$ 全体を加速する。

## 5. 数列変換 $T^{(m)}$

$S$ に収束する数列 $(S_n) \in \mathcal{C}^*$ に対し

$$e_n = S_n - S, \quad \lambda_n = 1 - e_{n+1}/e_n$$

とおく。 $L \cap G$ の部分集合 $\mathcal{L}_0$ を

$$\mathcal{L}_0 = \{ (S_n) \in \text{LOGSF} \mid \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\lambda_{n+1}}{1 - \frac{\Delta S_{n+1}}{\Delta S_n}} = 0 \}$$

により定義する.  $\mathcal{L}_0$  は対数収束数列のなかでも特に収束が遅い. そこで,  $\mathcal{L}_0$  の加速可能な部分集合を TSE を用いて求める.

はじめに繰り返し対数  $\log^{[m]} x$  と関数  $L^{[m]} x$  を定義しておこう:

$$\log^{[0]} x = x,$$

$$\log^{[m]} x = \log(\log^{[m-1]} x) \quad m = 1, 2, \dots$$

$$L^{[0]} x = x,$$

$$L^{[m]} x = L^{[m-1]} x \log^{[m]} x \quad m = 1, 2, \dots$$

$\log^{[m]} x$  および  $L^{[m]} x$  の定義域は

$$\{ x \in \mathbb{R} \mid \log^{[m-1]} x > 0 \}$$

である.

LOGSF の部分集合の次のような 2 つの系列を考える:  $m = 0, 1, 2, \dots$  に対し

$$\mathcal{S}^{[m]} = \{ (S_n) \in \text{LOGSF} \mid \exists \alpha > 0 \text{ s.t. } \lim_{n \rightarrow \infty} L^{[m]} n \lambda_n = \alpha \},$$

$$\mathcal{T}^{[m]} = \{ (S_n) \in \mathcal{S}^{[m]} \mid \lim_{n \rightarrow \infty} L^{[m]} n \Delta \varepsilon_n = 0 \}.$$

ここで,  $\varepsilon_n = L^{[m]} n \lambda_n - \alpha$ ,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \varepsilon_n = 0$  とする.

いま,  $\mathcal{S}^{[m]} (m = 0, 1, 2, \dots)$  に第 1 種の TSE を適用する. 3 節の  $U_n, f_n$  として

$$U_n = \{ (x_1, x_2, x_3) \in \mathbb{R}^3 \mid x_1 \neq x_3 \}$$

$$f_n(x_1, x_2, x_3) = L^{[m]}(n-1) \frac{x_2 - x_1}{x_1 - x_3}$$

とおく.

$$F_n(x_1, x_2, x_3, x_4) = f_n(x_2, x_3, x_4) - f_{n-1}(x_1, x_2, x_4) = 0$$

つまり

$$L^{[m]}(n-1) \frac{x_3 - x_2}{x_2 - x_4} = L^{[m]}(n-2) \frac{x_2 - x_1}{x_1 - x_4}$$

を  $x_4$  について解くと

$$x_4 = x_2 + \frac{L^{[m]}(n-1)(x_3 - x_2)(x_2 - x_1)}{L^{[m]}(n-2)(x_2 - x_1) - L^{[m]}(n-1)(x_3 - x_2)}$$

となる.

$$V_n = \{ (x_1, x_2, x_3) \mid L^{[m]}(n-2)(x_2 - x_1) \neq L^{[m]}(n-1)(x_3 - x_2), \\ x_1 \neq x_2, x_2 \neq x_3 \}$$

$$W_n = \{ (x_1, x_2, x_3, x_4) \mid (x_1, x_2, x_3) \in V_n, x_2 \neq x_4 \}$$

$$g_n(x_1, x_2, x_3) = x_2 + \frac{L^{[m]}(n-1)(x_3 - x_2)(x_2 - x_1)}{L^{[m]}(n-2)(x_2 - x_1) - L^{[m]}(n-1)(x_3 - x_2)}$$

とすると

$$F_n(x_1, x_2, x_3, x_4) = 0, \quad (x_1, x_2, x_3, x_4) \in W_n$$

と

$$x_4 = g_n(x_1, x_2, x_3), \quad (x_1, x_2, x_3) \in V_n$$

は同値になる.

3 節の結果より, 数列変換  $T^{[m]}$  を得る:

$$T^{[m]}_n = S_{n-1} + \frac{L^{[m]}(n-1) \Delta S_{n-1} \Delta S_{n-2}}{L^{[m]}(n-2) \Delta S_{n-2} - L^{[m]}(n-1) \Delta S_{n-1}}, \quad n \geq n_0$$

ここで,  $\log^{[m]}(n_0 - 2) > 0$  とする.

$T^{[m]}$  の定義域は

$$\mathcal{D}^{[m]} = \{ (S_n) \in \mathcal{C}^* \mid \Delta S_n \neq 0, L^{[m]}(n) \Delta S_n \neq L^{[m]}(n+1) \Delta S_{n+1} \\ \text{for } \forall n \geq n_0 - 2 \}$$

であり, 核は

$$\mathcal{N}^{[m]} = \{ (S_n) \in \mathcal{D}^{[m]} \mid \exists \alpha \in \mathbb{R} \text{ s.t. } L^{[m]}_n \lambda_n = \alpha \}$$

である.

定理 1. 整数  $m \geq 0$  と数列  $(S_n) \in \mathcal{S}^{[m]}$  に対し,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{T^{[m]}_n - S}{S_n - S} = 0$$

が成り立つための必要十分条件は,  $(S_n) \in \mathcal{J}^{[m]}$  である.

証明.  $(S_n) \in \mathcal{J}^{[m]}$  だから,  $\alpha > 0$  と零に収束する数列  $(\varepsilon_n)$  が存在して

$$L^{[m]}_n \lambda_n = \alpha + \varepsilon_n$$



となる.

$$\begin{aligned}\frac{T^{[m]}_n - S}{S_n - S} &= \frac{S_{n-1} - S}{S_n - S} + \frac{L^{[m]}(n-1) \Delta S_{n-1} \Delta S_{n-2}}{e_n (L^{[m]}(n-2) \Delta S_{n-2} - L^{[m]}(n-1) \Delta S_{n-1})} \\ &= \frac{e_{n-1}}{e_n} \left[ 1 - \frac{(\alpha + \varepsilon_{n-1})(\alpha + \varepsilon_{n-2})}{(\alpha + \varepsilon_{n-1})(\alpha + \varepsilon_{n-2}) - L^{[m]}(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2}} \right]\end{aligned}$$

より求める結果が得られる.  $\square$

系 2.  $(S_n) \in \mathcal{T}^{[m]}$  に対し,

$$\begin{aligned}T^{[m]}_n - S &= (S_{n-1} - S) \left[ - \frac{L^{[m]}(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2}}{(\alpha + \varepsilon_{n-1})(\alpha + \varepsilon_{n-2})} + O((L^{[m]}(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2})^2) \right].\end{aligned}$$

とくに,  $|\varepsilon_{n-1}| + |\varepsilon_{n-2}| = o(L^{[m]}(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2})$  のときは

$$\begin{aligned}T^{[m]}_n - S &= (S_{n-1} - S) \left[ - \alpha^{-2} L^{[m]}(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2} + O((L^{[m]}(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2})^2) \right].\end{aligned}$$

定理 3. 任意の自然数  $m$  に対し,  $\mathcal{T}^{[m]} \subset \mathcal{L}_0$ .

証明.  $(S_n) \in \mathcal{T}^{[m]}$  に対し,  $\alpha > 0$  と零に収束する数列  $(\varepsilon_n)$  が存在して

$$\begin{aligned}L^{[m]}_n \lambda_n &= \alpha + \varepsilon_n \\ \lim_{n \rightarrow \infty} L^{[m]}_n \Delta \varepsilon_n &= 0\end{aligned}$$

となる. よって

$$\begin{aligned}\frac{\Delta S_{n+1}}{\Delta S_n} &= \frac{e_{n+1}}{e_n} \frac{L^{[m]}_n (\alpha + \varepsilon_{n+1})}{L^{[m]}(n+1) (\alpha + \varepsilon_n)} \\ &= (1 - \lambda_n) \frac{L^{[m]}_n}{L^{[m]}(n+1)} [1 + O(\Delta \varepsilon_n)]\end{aligned}$$

だから

$$\begin{aligned}L^{[m]}(n+1) \left( 1 - \frac{\Delta S_{n+1}}{\Delta S_n} \right) &= L^{[m]}(n+1) - L^{[m]}_n + \alpha + \varepsilon_n + O(L^{[m]}_n \Delta \varepsilon_n).\end{aligned}$$

したがって,

$$\frac{\lambda_{n+1}}{1 - \frac{\Delta S_{n+1}}{\Delta S_n}} = \frac{\alpha + \varepsilon_{n+1}}{L^{[m]}(n+1) - L^{[m]}n + \alpha + \varepsilon_n + O(L^{[m]}n \Delta \varepsilon_n)}$$

より,  $m > 0$  のとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (L^{[m]}(n+1) - L^{[m]}n) = \infty$$

であることに注意すれば,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\lambda_{n+1}}{1 - \frac{\Delta S_{n+1}}{\Delta S_n}} = 0$$

が成立する.  $\square$

$\mathcal{T}^{[m]}$  に関するさらに詳しい性質については, Osada[6]を見よ.

## 6. 加速列 $(T^{[m]}_n)$ の誤差の漸近公式

数列  $(S_n)$  がある種の漸近展開を満たす場合の, 加速列  $(T^{[m]}_n)$  の誤差の漸近公式 ( $m=1, 2$ ) を述べる.

命題 4. 数列  $(S_n)$  が,

$$S_n - S = (\log n)^\alpha \left[ c_0 + \frac{c_1}{n \log n} + \frac{c_2}{n^2 \log n} + O\left(\frac{1}{n^2 (\log n)^2}\right) \right]$$

を満たすものとする. ここで,  $\alpha$  は負の実数で,  $c_0 \neq 0$ ,  $(\alpha/2) + (c_1/c_0) \neq 0$  とする. このとき,  $(S_n) \in \mathcal{T}^{[1]}$  で,

$$T^{[1]}_n - S = \frac{c_0}{\alpha^2} \left( \frac{\alpha}{2} + \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{(\log n)^{\alpha+1}}{n} + O\left(\frac{(\log n)^\alpha}{n}\right).$$

証明 Maclaurin 展開から得られる漸近公式

$$\begin{aligned} (\log(n+1))^\alpha - (\log n)^\alpha &= \frac{\alpha}{n} (\log n)^{\alpha-1} - \frac{\alpha}{2n^2} (\log n)^{\alpha-1} \\ &\quad + \frac{\alpha(\alpha-1)}{2n^2} (\log n)^{\alpha-2} + O\left(\frac{(\log n)^{\alpha-1}}{n^3}\right), \end{aligned}$$

$$\frac{(\log(n+1))^\alpha}{(n+1)^k} - \frac{(\log n)^\alpha}{n^k} = -\frac{k(\log n)^\alpha}{n^{k+1}} + \frac{\alpha(\log n)^{\alpha-1}}{n^{k+1}} + O\left(\frac{(\log n)^\alpha}{n^{k+2}}\right)$$

を繰り返し用いることにより,

$$\Delta S_n = c_0 \alpha \frac{(\log n)^{\alpha-1}}{n} \left[ 1 - \left( \frac{1}{2} + \frac{c_1}{c_0 \alpha} \right) \frac{1}{n} \right. \\ \left. + \left( \frac{\alpha-1}{2} + \frac{c_1(\alpha-1)}{c_0 \alpha} \right) \frac{1}{n \log n} + O\left(\frac{1}{n^2}\right) \right],$$

$$\frac{\Delta S_n}{e_n} = \frac{\alpha}{n \log n} \left[ 1 - \left( \frac{1}{2} + \frac{c_1}{c_0 \alpha} \right) \frac{1}{n} \right. \\ \left. + \left( \frac{\alpha-1}{2} - \frac{c_1}{c_0 \alpha} \right) \frac{1}{n \log n} + O\left(\frac{1}{n^2}\right) \right]$$

が得られる。よって,

$$n \log n \frac{\Delta S_n}{e_n} = \alpha - \left( \frac{\alpha}{2} + \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{1}{n} + \left( \frac{\alpha(\alpha-1)}{2} - \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{1}{n \log n} \\ + O\left(\frac{1}{n^2}\right).$$

これより,  $(S_n) \in \mathcal{T}^{(1)}$  が成り立つ.

$$\Delta \varepsilon_n = -\left( \frac{\alpha}{2} + \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{1}{n^2} + \left( \frac{\alpha(\alpha-1)}{2} - \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{1}{n^2 \log n} + O\left(\frac{1}{n^2 (\log n)^2}\right)$$

と系 2 より

$$\begin{aligned} T^{(1)}_n - S &= e_{n-1} \left[ -\alpha^{-2} (n-2) \log(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2} + O((n-2) \log(n-2) \Delta \varepsilon_{n-2}^2) \right] \\ &= \frac{c_0}{\alpha^2} \left( \frac{\alpha}{2} + \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{(\log n)^{\alpha+1}}{n} + O\left(\frac{(\log n)^\alpha}{n}\right) \quad \square \end{aligned}$$

命題 5. 数列  $(S_n)$  が,

$$S_n - S \sim (\log n)^\alpha \left[ c_0 + \frac{c_1}{\log n} + \frac{c_2}{(\log n)^2} + O\left(\frac{1}{(\log n)^3}\right) \right]$$

を満たすものとする。ここで,  $\alpha$  は負の実数で,  $c_0 \neq 0$  である。このとき,

$(S_n) \in \mathcal{T}^{(1)}$  で,

$$T^{[1]}_n - S = \frac{c_1}{\alpha^2} (\log n)^{\alpha-1} + O((\log n)^{\alpha-2}).$$

証明. 命題 4 と同様である.

命題 6. 数列  $(S_n)$  が,

$$S_n - S = (\log^{[2]} n)^\alpha \left[ c_0 + \frac{c_1}{n \log n \log^{[2]} n} + O\left( \frac{1}{n^2 \log n (\log^{[2]} n)^2} \right) \right]$$

を満たすものとする. ここで,  $\alpha$  は負の実数で,  $c_0 \neq 0$ ,  $(\alpha/2) + (c_1/c_0) \neq 0$  とする. このとき,  $(S_n) \in \mathcal{F}^{[2]}$  である. さらに

$$T^{[2]}_n - S = \frac{c_0}{\alpha^2} \left( \frac{\alpha}{2} + \frac{c_1}{c_0} \right) \frac{\log n (\log^{[2]} n)^{\alpha+1}}{n} + O\left( \frac{(\log^{[2]} n)^{\alpha+1}}{n} \right).$$

証明. 命題 4 と同様である.

## 7. 数値例

例 1 級数の部分和

$$S_n = \sum_{j=2}^n \frac{1}{j(\log j)^2}$$

を考える. Euler-Maclaurin の公式より, 漸近展開

$$S_n - S = \frac{-1}{\log n} + \frac{1}{2n(\log n)^2} - \frac{(\log n) + 2}{12n^2(\log n)^3} + \frac{3(\log n)^3 + 11(\log n)^2 + 18(\log n) + 12}{360n^4(\log n)^5} + O\left( \frac{1}{n^6(\log n)^2} \right)$$

が得られる. この漸近展開より

$$S = 2.10974 \ 28012 \ 36892$$

も計算できる. 命題 4 より,  $(S_n) \in \mathcal{F}^{[1]}$  がいえる.

$S_n$  と  $T^{[1]}_n$  の有効桁数 ( $= -\log_{10} |\text{誤差}|$ ) を表 1 に示す. それぞれ, およそ  $\log_{10}(\log n)$ ,  $\log_{10} n$  である.

## 例 2 数列

$$S_n = \left(1 + \frac{1}{\log n}\right)^{1/2}$$

を考える. 2項展開により

$$S_n \sim 1 + \sum_{j=1}^{\infty} \binom{1/2}{j} (\log j)^{-j}$$

が成り立つ. 命題 5 より,  $(S_n) \in \mathcal{F}^{[1]}$  がいえる.

$S_n$  と  $T^{[1]}_n$  の有効桁数を表 1 に示す. それぞれ, およそ  $\log_{10} 2 + \log_{10}(\log n)$ ,  $\log_{10} 8 + 2 \log_{10}(\log n) (= -\log_{10}(1/8(\log n)^2))$  となっている.

## 例 3 級数の部分和

$$S_n = \sum_{j=4}^n \frac{1}{j \cdot \log j (\log^{[2]} j)^2}$$

を考える. Euler-Maclaurin の公式より, 漸近展開

$$\begin{aligned} S_n - S &= \frac{-1}{\log^{[2]} n} + \frac{1}{2n(\log n)(\log^{[2]} n)^2} \\ &\quad - \frac{(\log n)(\log^{[2]} n) + \log^{[2]} n + 2}{12n^2(\log n)^2(\log^{[2]} n)^4} \\ &\quad + O\left(\frac{1}{n^4(\log n)(\log^{[2]} n)^2}\right) \end{aligned}$$

が得られる. この漸近展開より

$$S = 4.10340 \ 05972 \ 00226$$

が計算できる. 命題 6 より,  $(S_n) \in \mathcal{F}^{[2]}$  がいえる.

$S_n$  と  $T^{[2]}_n$  の有効桁数を表 1 に示す. それぞれ, およそ  $\log_{10}(\log^{[2]} n)$ ,  $\log_{10} n - \log_{10}(\log n) (= -\log_{10}((\log n)/n))$  となっている.

表 1.  $T^{[m]}$  変換の有効桁数

| n     | 例 1   |             | 例 2   |             | 例 3   |             |
|-------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|
|       | $S_n$ | $T^{[1]}_n$ | $S_n$ | $T^{[1]}_n$ | $S_n$ | $T^{[2]}_n$ |
| 6     | 0.27  | -0.40       | 0.61  | 0.47        | -0.20 | -1.10       |
| 7     | 0.30  | -0.08       | 0.64  | 0.63        | -0.15 | -1.49       |
| 8     | 0.33  | 0.12        | 0.66  | 0.76        | -0.12 | -0.81       |
| 9     | 0.35  | 0.26        | 0.69  | 0.86        | -0.09 | -0.54       |
| 10    | 0.37  | 0.37        | 0.70  | 0.94        | -0.07 | -0.38       |
| 20    | 0.48  | 0.92        | 0.81  | 1.37        | 0.04  | 0.26        |
| 30    | 0.53  | 1.18        | 0.86  | 1.57        | 0.09  | 0.51        |
| 40    | 0.57  | 1.34        | 0.89  | 1.70        | 0.12  | 0.66        |
| 50    | 0.59  | 1.46        | 0.92  | 1.79        | 0.14  | 0.77        |
| 100   | 0.66  | 1.82        | 0.99  | 2.04        | 0.18  | 1.09        |
| 200   | 0.72  | 2.16        | 1.04  | 2.24        | 0.22  | 1.39        |
| 300   | 0.76  | 2.35        | 1.08  | 2.34        | 0.24  | 1.55        |
| 400   | 0.78  | 2.48        | 1.10  | 2.41        | 0.25  | 1.67        |
| 500   | 0.79  | 2.58        | 1.11  | 2.45        | 0.26  | 1.76        |
| 1000  | 0.84  | 2.90        | 1.16  | 2.58        | 0.29  | 2.04        |
| 2000  | 0.88  | 3.21        | 1.20  | 2.68        | 0.31  | 2.31        |
| 3000  | 0.90  | 3.39        | 1.22  | 2.73        | 0.32  | 2.47        |
| 4000  | 0.92  | 3.52        | 1.23  | 2.77        | 0.33  | 2.59        |
| 5000  | 0.93  | 3.62        | 1.24  | 2.79        | 0.33  | 2.68        |
| 10000 | 0.96  | 3.93        | 1.28  | 2.87        | 0.35  | 2.95        |
| 20000 | 1.00  | 4.23        | 1.31  | 2.93        | 0.36  | 3.23        |
| 30000 | 1.01  | 4.40        | 1.32  | 2.97        | 0.37  | 3.39        |

10進約16桁

PC-9801VM

## 8. 結論

数列の集合から数列変換を導き出す方法 T S E は、加速可能集合や数列変換の核の研究に役立つ。収束の速度が極めて遅い $\mathcal{L}_0$ の部分集合に T S E を適用して得られる変換  $T^{[1]}$ ,  $T^{[2]}$  は、 $1/\log n$  や  $1/\log(\log n)$  の order で収束する数列を、 $1/n$ ,  $1/(\log n)^2$  あるいは  $(\log n)/n$  などの order で収束する数列に変換するので、許容誤差が比較的大きいときには、実用に使える。

$T^{[1]}$ ,  $T^{[2]}$  変換は、繰り返し適用や、他の加速法との組み合わせにより、高精度の結果を与えることがある。これについては、今後の課題である。

命題 4, 5, 6 は、研究集会の際の鳥居達生教授との討論から示唆を受けた。ここに記して感謝する。

## 参考文献

- [1] C. Brezinski, Accélération de la Convergence en Analyse Numérique, Lecture Notes in Math. 584, Springer-Verlag, 1977.
- [2] C. Brezinski, A new approach to convergence acceleration methods, in A. Cuyt (ed.), Nonlinear Numerical Methods and Rational Approximation, D. Reidel Publishing Company, 373-405, 1988.
- [3] J. P. Delahey and B. Germain-Bonne, The set of logarithmically convergent sequences cannot be accelerated, SIAM J. Numer. Anal. 19(1982), pp. 840-844.
- [4] P. Henrici, Elements of Numerical Analysis, John Wiley and Sons, 1964. [一松・平本・本田共訳, 数値解析の基礎, 培風館(1973).]
- [5] C. Kowalewski, Accélération de la convergence pour certaines suites à convergence logarithmique, Lecture Notes in Math. 888, pp. 263-272, Springer-Verlag, 1981.
- [6] N. Osada, Accelerable subsets of logarithmic sequences, J. Comp. Appl. Math. (to appear).
- [7] J. Wimp, Sequence Transformations and Their Applications, Academic Press, 1981.